



車いすバスケットボール体験教室の様子

小さな気づきが世界を変える――

2020年、いよいよ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が始まります。世界中の多くの国や地域から、人種や国籍を超えて人々が集まり、その技を競い合う、想像するだけで心が湧き立ち、胸が躍ります。

次のページでは、市民の皆さんから募った人権作品の中から、令和元年12月の「人権フェスタ2019」で表彰された作文2編を紹介いたします。人権フェスタ当日、朗読を聞いた多くの大人たちから感嘆の声が上がりました。

どちらの作文も、スポーツや仲間を通して自分が気づかされた大切なことを綴っています。

皆さんにも、子どもたちの思いに触れていただき、改めて、人権を考えるきっかけにいただきたいと思います。

※記載があるもの以外はすべて、祝・休日、年末年始を除く

子どもの相談窓口 (いじめ、体罰、虐待など)

子どもの人権110番 (全国共通・無料)

☎ (0120) 007-110

【月～金曜日 8:30～17:15】

子どもの人権SOS-eメール
パソコンから

「インターネット 人権相談」で検索
携帯電話から



携帯電話やスマートフォンでも
相談できます。左の2次元
コードを読み込んでください。

市役所子育て応援室

☎ (0829) 30-9129

【月～金曜日 8:30～17:15】

広島県西部こども家庭センター

☎ (082) 254-0381

【月～金曜日 8:30～17:15】

外国人の相談窓口 (日常生活での困りごとなど)

外国語人権相談ダイヤル

☎ (0570) 090-911

市役所協働推進課 (市民活動センター内)

☎ (0829) 30-0201

●中国語 (中文) 【火・木曜日 9:00～16:00】

●タガログ語 (Tagalog)、英語 (English)

【水・金曜日 9:00～16:00】

●ベトナム語 【木曜日 9:00～16:00】

ひろしま国際センター (外国人相談窓口)

☎ (0120) 783-806

●一般相談 【月～金曜日 10:00～19:00、土曜
日 9:30～18:00】

●専門相談 (在留資格・労働など)
【木・土曜日 10:00～16:00】

女性に関する相談窓口

(配偶者やパートナーからのDVなど)

広島県西部こども家庭センター (配偶者暴力相談支援センター)

◆女性・DV相談

☎ (082) 254-0391

【月～金曜日 10:15～17:00】

◆休日・夜間電話相談

☎ (082) 254-0399

【月～金曜日 17:00～20:00】

【土・日曜日、祝日 10:00～17:00】

エソール広島

◆一般電話相談

☎ (082) 247-1120

【月・火・木・金・土曜日 10:00～16:00】

市役所子育て応援室

☎ (0829) 30-9129

【月～金曜日 8:30～17:15】

性被害ワンストップセンターひろしま

☎ (082) 298-7878

【毎日24時間】

◆デートDV電話相談

☎ (082) 247-1120

【第1・3土曜日 13:00～16:00】

女性の人権ホットライン (全国共通)

☎ (0570) 070-810

【月～金曜日 8:30～17:15】

あなたの声を 聞かせてほしい

さまざまな人権問題に関して、
問い合わせ窓口を設けています。
少しでも、気になることや心配なことがあれば、
気軽に連絡してください。



お互いを思い合える社会へ――

障がいのある人の相談窓口 (障がいに関する困りごとなど)

障がい福祉相談センターきらりあ

☎ (0829) 20-0224

FAX (0829) 20-0225

【月～金曜日 9:00～17:00】

市役所障害福祉課

☎ (0829) 30-9128

FAX (0829) 31-1999

【月～金曜日 8:30～17:15】

LGBTに関する相談窓口

エソール広島

☎ (082) 207-3130

【土曜日 10:00～16:00】

その他の相談窓口 (人権に関する困りごとなど)

みんなの人権110番 (全国共通)

☎ (0570) 003-110

【月～金曜日 8:30～17:15】

広島法務局廿日市支局

☎ (0829) 31-2164

【月～金曜日 8:30～17:15】

廿日市人権擁護委員協議会

☎ (0829) 31-2165

【火・金曜日 9:00～16:00】

犯罪被害者等支援窓口

広島被害者支援センター

☎ (082) 544-1110

【月～土曜日 9:00～17:00 (8月13日～
16日除く)】

ぼ くは、言葉は人の心を温かくもするし、傷つけたりもするものだと思います。言葉には人の気持ちを伝えられる強い力がある。だからこそ、よく考えて大切にしなければいけない。昨年の運動会での出来事をきっかけに、ぼくはそう考えるようになりました。

五年生だったぼくは、男子リレーの選手に選ばれていました。二位でバトンを受け取りましたが、コーナーのところで転んでしまい、次々と抜かされ、大きく差をつけて最後になってしまいました。男子リレーは運動会の最後の種目なので、これで勝敗が決まります。それなのに、ぼくのせいでみんなに迷惑をかけてしまい、なみだがあふれてきました。でも友達がすぐにかけ寄ってきてくれて、「大丈夫。」

「気にするな。」などと、はげましてくれました。傷つく言葉を使う友達も少しいたけれど、ほとんどの友達が優しい言葉をかけてくれました。中でも、ぼくがバトンをわたした六年生から言われた言葉で、ぼくは絶望のどん底から立ち直ることができました。

「気にするな。お前はすぐ速かった。オレはもう卒業だけど、お前は足が速いんだから、来年も絶対リレー選手になれよ。そして中学に入ったら、オレを探して必ず会いに来いよ。」と、背中をポンとたたいてくれたのです。この言葉によってぼくは救われ、来年もがんばろうと前向きな気持ちになることができました。言葉は、人の心を温かくしてくれます。



そ して、今年の運動会。ぼくはその六年生との約束を守り、リレー選手になって小学校最後の運動会を力いっぱい走りました。六年生が言ってくれたあの優しい言葉と笑顔が心に浮かび、ぼくにとって大きな力になりました。

優しい言葉を選んで

平良小学校6年 永見 優音

「言葉は使い方次第で人の心を温かくもするし、傷つけたりもする。」

ことも乗りこえられる気がしてきます。

し かし、逆に言葉は人を傷つけると、いじめによる自殺など、悪いニュースがあとを絶えません。身体的暴力だけでなく、言葉の暴力で自殺に追い込まれる人がたくさんいます。言葉の使い方は、たまたま一度しかない人生を台無しにしてしまうのだと深く考えさせられました。いじめに関わらず、学校の友達関係でも、何気ない言葉が、人を傷つける凶器となってしまうこともあります。自分は傷つけるつもりがなくても、相手にそれはショックで、傷つく言葉だということもあるからです。ぼくは女の子みたいとみんなに言われ、傷ついた経験があります。友達は悪気がなかったのに、ぼくが傷ついたことに気付いていませんでした。

こ のような経験から、言葉は使い方次第で人の心を

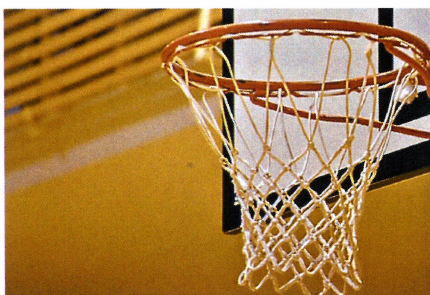
温かくもするし、傷つけたりもするものだと実感しました。言葉の暴力と言葉の優しさ。毎日使う言葉なのだから、積極的に優しい言葉を選んで使っていくことが大切だと感じています。あの時、六年生がくれた思いやりを今度はぼくが伝えていきたいと思っています。優しい言葉で思いやりをつなげれば、いじめなど悲しい問題もなくなっていくのではないのでしょうか。一人ひとりが言葉の使い方に気をつければ、きっと世の中も変わっていくはずです。

自分への何気ない言葉が相手に大きな影響を与える場合がある、人の運命まで変えてしまうかもしれない、そんな力を言葉は持っているということを、改めて心に刻んでおこうと思います。

僕 は病気にかかっています。この病気は筋肉系の病気で、ある筋ジストロフィーのまだ分かっていない型ではないかと言われました。そして、どれ位でなくなるのか、どのような病状がどのようになるのか分からないというとも言われました。この病気の症状のような物が、ではじめたのは小学2年生位の時でした。しかし、いきなり歩けなくなるのではなく、じわじわと体が動かしにくくなったり、成長するにつれて速くなるはずの足が少し遅くなったのかなという程度でした。でも、だんだん病気が進んでいき4年生になる時には、階段は登りにくくなり、周りの皆と一緒に鬼ごっこやサッカーなどができないほど体が動かしにくくなってしまっていました。自分はこの時、兄に影響を受けて地域のバスケットチームでプレイしていました。このチームは大きな大会にも出られるような強いチームでした。このようなこともあり自分は遠い所に遠征に行っても自分と同年の人が試合に出ている中、自分は一度も試合に出ない、出られないという状況が3回ほど連続で続きました。自分はこのチームでは、皆と一緒にで

きないと思ってバスケットを辞めました。しかし、元々は運動が大好きなので走れなくなっても運動はしたいと思いました。そこで、一般的にあまりやられていない物をやろうと思って、まず馬術を体験に行きました。でも、そんなに楽しいと思わなかった。次はアーチェリーに行きました。最初は楽しかったけど、途中から全然楽しくなくなっていました。最後に自分は、自分の好きな事をやろう

「諦めずに探すと形は変わったけれど好きな運動をすることができた—」



たけど、車いすバスケットのチームにいます。全然気を使わずに、使わずにできて、皆と一緒にプレイできました。そして、1年後位の時に初めて県外の人と試合をしました。すると、自分のチームにいる人とはまた違った病気の、障害を持っている人がいました。

こんなにくさんの病気の障害があるとは思っていませんでした。少しづつくりしました。でも、まだ自分と同じ病気で車いすバスケットをやっている人を見たことがないので早く見つけたいです。自分は、今までこのような経験、体験をしてきて車いすバスケットを始める前と後で変わった考え方が二つあります。

一 つ目は、助け合い協力はすごく大切だと思ったことです。これまで自分は最低限必要な時だけでも別に困らないでしようというふうに考えていました。でも、車いすの人など行動するようになり、ちょっとした段差の時などに手助けをするようになりました。そして、車いすの人達も、僕が何か困って

いたら、助けられるようになりました。助けてくれるようになりました。助けてもらうようになり、最初はチームの皆で行動するのが周りが速くてしんどかったけど、今では皆が気になってくれるようになり、逆にすごく、楽しく過ごせるようになりました。このように、助け合い、協力をすれば嫌だったことも苦手だったことも楽しく、楽にできると分かりました。

二 つ目は、諦めなければならぬと思ったことです。できるようなこと、思っていたのかという、地域のチームでバスケットを続けられなくなり、立ってのスポーツや運動ができなくなりました。諦めずに今車いすバスケットをしているからです。最初のうちはすごく落ちこんでしまい、もうなにもやりたくない、できないと思っていました。しかし、諦めずに探すと形は変わって好きな運動をすることができました。

自分はこれからもこの病気と一緒に生きていかなければなりませんか。しかし、病気のせいだといって諦めずに頑張っていきたいです。

※作文は、原文のまま掲載しています